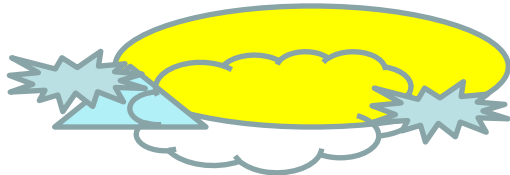


「2構造の比較」

・・・どうして○と△だけではいけないのか・・・

「自由フラット型」

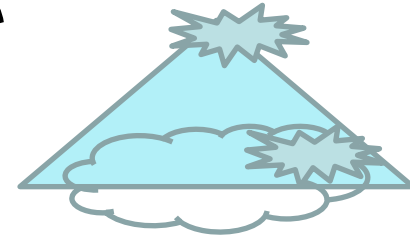
◎自由、権限(権力)・権利平等、内発的、議論進展



▲権力分散・決議・決定力は弱、同僚圧力に弱い・コピー化、陰の権力発生(隠れボス)

「秩序統制型」

◎責任・権限明確、分業化、意思決定素早い



▲権力集中(資金・情報・人事の独占)、不自由、外発的(内発弱い)、権威主義的、縦割り指導、連携不足、面従腹背(陰の反抗勢力発生)

「左図」・・・自由型は、理想に見えるが、実は不安定・・・責任不在・内部対立の調整不可、時に陰のグループボスが誕生する

「右図」・・・秩序統制型も、表面は安定に見えて実は不安定・・・権力者の専制・内部矛盾を抑圧しているだけなので、何らかの危機的状況ではそれらは非協力・時に暴発・・・両者とも、優れた他の組織との競合では不利・敗者になる(「歴史が証明」)

「解説」・歴史的考察

- ◎「自由フラット型」・自然発生的な「共同体集団」(第一次集団)・古代からの村型社会(非目的な集団)、現代ではサークルやNPO的な集団
 - ・この組織は・歴史的には、「合目的な社会集団」(古代では「古代都市国家(王と官僚)」・近代では「企業的組織・近代合理社会・国家」との競合で負ける。・しかし、人間関係の基礎型として存在している
- ◎「秩序統制型」・目的遂行のために造られた組織の中枢部となり、執行責任体制と組織安定化を図る組織形態。
 - ・歴史的には、古代都市国家(王と官僚制)として、他の村型組織を制覇。近代でも、近代王制(王と官僚制)として中世型封建社会を駆逐した。
 - *なお、この「近代王制」の「秩序統制」が身分固定から抜けきらず、国民的な活力(エネルギー)の開発につながらないことから、「自由フラット型」の民衆活力を吸収しながらも「秩序統制型」の執行責任体制を維持しようとする「重層柔構造」型が誕生する・オランダの「王と議会の併存型」(「名誉革命・1688年」)の後に、イギリスが採用する・現在までこの形態)
 - ・余談・この2者の確執は続く(「議会と内閣府」・「大統領と議会」など)・この確執が思考選択の機会・良好状態なのだ・もし確執がないと思考停止だ

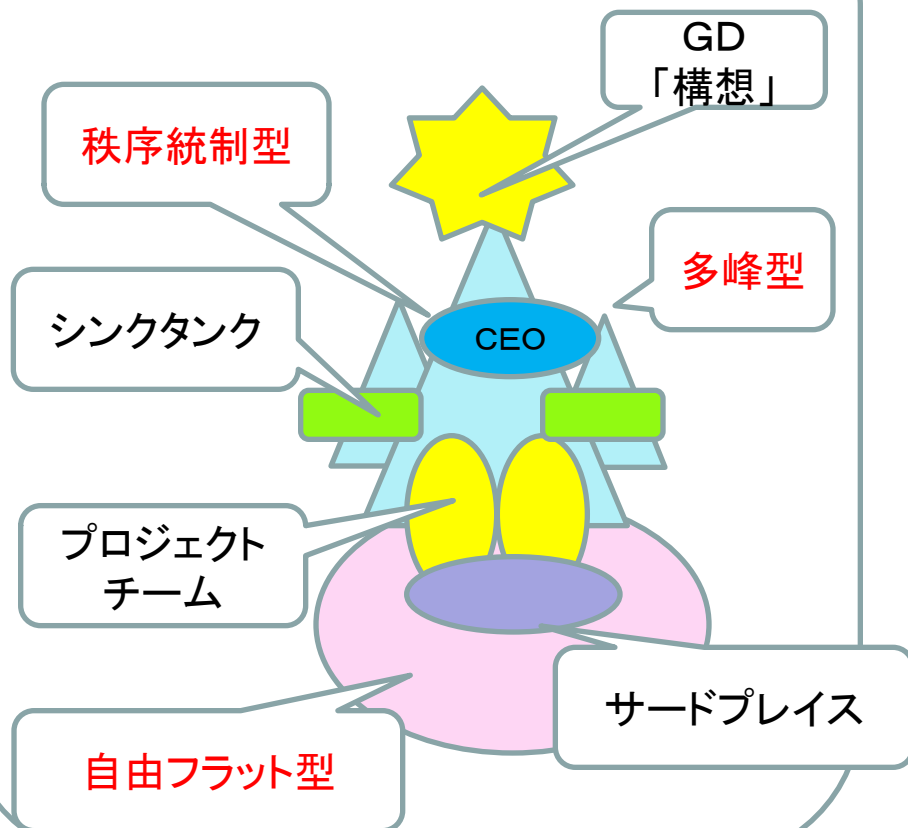
「最適組織」

・・「重層柔構造」・・

「解説」・・2つの組織結合

- * 「TT」はやや理念・GDの検討を・・職種・年齢・性別を考慮して意欲者選任
- * 「PT」・・現場提言と理念との結合を・・意欲ある人材の発案採用
- * 「TT」・・職種・年齢・性別を離れての自由発案を奨励・それなりの「場」「雰囲気」の設定・・（広瀬淡窓「三脱」の教育）

「重層柔構造」システム組織



「右図」=自由と秩序の重層型が最適組織。2つの組織（○と△）の接合が必要
・・それが「シンクタンク」と「プロジェクトチーム」・「サードプレイス」の制度だ。

「解説」＝最適組織のシステムとは・・・

- 1: 重層柔構造である、また多峰型である(開かれた権力構造)
 - * 自由フラット構造＋秩序責任制度・・・この合体
 - * 多峰型とは・・・領域別多頭トツプの融合力(毛利の三矢? 両川)
- 2: 重層のつながぎ＝柔の工夫・・・人事対流・交流(「制度・文化」)
 - * TT(シンクタンク)・・・頭脳集団・各人材階層から
 - * PT(プロジェクトチーム)・・・意欲個人・集団の結成
 - * TP(サードプレイス)・・・自由意見・提言の保証
- 3: つながぎの人材・・・WMLへと成長 (「文化」「個人意識」で検討)
 - * 「積み上げ」能力・・・知識・理解・把握の過程
 - * 「掘り下げ」能力・・・知識の分析・始原の探究